

2024年度 自己点検・自己評価

1. 学校の教育目標

- 1) 人々の生命と個々の人格を尊重し、豊かな人間性を備えている。
- 2) 看護の対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解している。
- 3) 人々の健康と生活を、自然・社会環境とのダイナミックな相互作用の観点から理解している。
- 4) 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人としての倫理観に基づいた行動をとる。
- 5) 健康や障害の状態に応じ、科学的根拠に基づいた看護を実践するための基礎的能力をもつ。
- 6) 保健・医療・福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力をもつ。
- 7) 看護実践者として国際的視野をもち、医療の最新知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつ。

2. 2024年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) 質の高い人材の確保と育成

(1) 推薦・一般入学試験受験者の確保

- ① 高等学校との連携強化と広報活動の推進（県内・県外）
- ② 高等学校への訪問と適切な在校生情報の提供
- ③ 保護者に向けた情報発信
- ④ ホームページ等（動画・SNS）での情報発信とオープンスクール開催の工夫

(2) 国立病院機構及び社会に貢献できる看護実践者の育成

- ① 国立病院機構病院への就職推進・自己にあったキャリア形成
- ② 看護師国家試験の合格率100%を目指す（国家試験対策の構築）
- ③ 実習病院との連携強化（実習指導者研修会の見直し）
- ④ 学生一人一人の成長・課題に合わせたきめの細かいタイムリーな指導
- ⑤ 中間・年度末に満足度調査を行い、適時フィードバックし学生満足度の向上を図る

2) 質の高い教育の向上

(1) 学習・実習環境の充実

- ① 学生の声に耳を傾け、学生が話しやすい雰囲気づくりに努める
- ② 教員間のアサーティブで建設的な意見交換
- ③ カリキュラム評価の実施
- ④ 授業および実習評価の活用と向上（アクティブラーニングの評価：講義・演習・実習）
- ⑤ 学生による卒業時カリキュラム評価（3.5以上）
- ⑥ 実習指導方法の検討（学生の思考・行動の評価）
- ⑦ 教員インターンシップの開催

3) 看護教員の教育力・マネジメント能力の向上

(1) 看護教員の積極的な能力開発への取り組み

- ① 授業案の検討（講義・演習・実習のつながり）
- ② 授業研究の促進（校内・校外）
- ③ 研究活動の促進（研究発表昨年度以上）
- ④ 看護管理実務研修（臨床管理研修5日以上、2人以上）
- ⑤ 看護教員能力開発プログラム（TNAD）による教員個々のキャリア育成

4) 学生が主体的に考え、判断し、行動できる基礎的能力を育成する

(1) 社会人基礎力の育成

- ① 学生に役割を付与し、履行できるように支援する
学生自治会活動、学生フォーラム、感染防止対策等
- ② 1年次から毎年自己評価(自己の成長を確認)

(2) 豊かな人間性と高い倫理観の育成

- ① 学生が自ら考え、感じ、発言および行動できるように支援する
講義・演習・実習・学生生活
- ② 倫理的視点に基づいた学生指導(倫理観の醸成)

5) 将来を見据えた学校の在り方と組織の活性化・効率化

(1) 附属養成所の運営の在り方を検討

- ① 学校運営状況の評価 学生の確保と学校の存続について

(2) 業務の効率化と健全な勤務環境の改善

- ① 教員・教務助手・事務助手の業務の効率化のための調整
- ② 計画的な業務の遂行
- ③ 健康管理
- ④ 職員やりがい度の向上

評価(4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切)

I. 教育理念・目標	
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特徴が明確になっているか)	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
平均	4.0

II 学校運営	
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3

4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
平均	3.8

Ⅲ 教育活動	
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での位置づけはあるか	4
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	3
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	4
平均	3.8

Ⅳ 学修成果	
1. 就職率の向上が図られているか	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	4
3. 退学率の低減が図られているか	3
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4
平均	3.8

Ⅴ 学生支援	
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2. 学生相談体系的に関する体制は整備されているか	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	3
7. 保護者と適切に連携しているか	4
8. 卒業生への支援体制はあるか	4
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
平均	3.8

Ⅵ 教育環境	
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4

3. 防災に対する体制は整備されているか	4
平均	4.0

Ⅶ 学生の受け入れ募集	
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3. 学納金は妥当なものとなっているか	4
平均	4.0

Ⅷ 財務	
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4
平均	4.0

Ⅸ 法令等の遵守	
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4. 自己評価結果を公開しているか	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	4
平均	4.0

Ⅹ 社会貢献・地域貢献	
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3

2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
平均	3.6

XI 国際交流（必要性に応じて）	
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	2
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
平均	2.5

2024 年度 外部評価委員意見

矢島 正（群馬大学医学部医学科講師）

1. 総評

自己点検・自己評価結果において、ほとんどの項目に関して前年度・前々年度と比較しても喫緊に解決しなければならない重大な問題は認められませんでした。本校の教育・運営・組織等に関しては概ね適切であったと評価します。

2. 各項目に対する所見及び意見

1) 「2024 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画」について

5つの柱を軸に、学校運営全般を見通して過不足ない自己点検・自己評価がなされています。それぞれの項目の内容に関しては、改善・成果を得た部分と課題が認められる部分がありましたが、多くの項目について好ましい進展や改善が図られたと認められます。なお、課題に関しては現代の社会的状況や風潮が大きく影響しているものが

多く、即応的に改善が図れるものではありません。短期的な改善が必要な課題、長期的かつ構造的な対応が必要な課題を整理し、次年度に注力すべき内容を焦点化されるべきと考えます。

2) 項目別評価結果について

① 教育理念・目標

看護大学との教育の違いを意識して専修学校としての特徴を生かした学校運営を進めていることは妥当と考えます。本県内の基幹校としての役割も果たされています。保護者との連携に配慮されている姿勢は適切です。

② 学校運営

学校経営収支は厳しいとはいえ、補助金の獲得や講座認定の取得などの努力は評価されます。補助金の獲得については継続的な努力の結果が実を結んだ様であり大変よかったと考えます。教職員の勤務状況の改善、社会的コンプライアンスの確立などへの努力は評価できます。

③ 教育活動

カリキュラムの変更・移行に伴う取り組みは適切です。教職員が自ら希望する研修の場への参加ができるような勤務環境が実現できるように引き続きの努力が望まれます。設置者の一層の配慮を望みます。評価委員会委員等による評価・助言については随時行われていると考えます。

④ 学修成果

国試合格率 100%（第 113 回）は立派です。退学者については致し方ない事情があると考えます。県内外の看護専門学校の状況が分かればそれと比較するとよいと考えます。卒業後のキャリア形成については同窓会と連携した事業を考えるのも一案と思います。

⑤ 学生支援

新型コロナウイルスに関わる状況が大きく変化していることを鑑み、十分な配慮の上、課外活動や学生への個別相談などを充実させていただくことが中途退学の減少のためにも有効ではないかと考えます。

⑥ 教育環境

PC 環境の充実は今後とも重要な課題と思われます。大規模災害の発生時には看護学校は重要なエッセンシャルワーカーの拠点であるという意識を学生がもつ必要があります。

⑦ 学生の受け入れ募集

入試のあり方や事前説明会の持ち方等での努力は評価できます。県内公立高校の進路指導主事も評価しております。多様な情報ツールを活用して本校での学びについて周知していただけるとよいと考えます。

⑧ 財務

母体病院の経営が黒字である面は安心できる要素ではありますが、外部からの補助金の獲得などは重要です。それに伴う努力は評価できます。経費削減は大事ですが、それを意識しすぎて学生の学校生活が過度に制約を受けないようにご配慮ください。

⑨ 法令等の遵守

全般的に見て法令の遵守についてはきちんとなされていると考えます。自己評価、学生による評価、外部による評価など組み合わせて、実態の把握に努めている点はよいと考えます。教職員の勤務に関してウエルビーイングは重要です。今後ともご配慮ください。

⑩ 社会貢献・地域貢献

学生によるボランティア活動の意義を問い直し、学生の自治会活動の活性化が図られるとよいと思います。

⑪ 国際交流

留学生や外国籍の方が学校での学習の様子を参観したり体験したりできると日本人学生にもよい影響を与えることができると考えます。

3) 総合的な評価結果について

① 質の高い人材の確保と育成

高い国家資格取得率に象徴されるように、学生が専門学校としての役割の理解を深め、誇りを持てる工夫が重要です。オープンスクールの実施、受験機会の増加など負担はありますが、今後ともご尽力ください。学生の評価の結果に真摯に寄り添い、彼らを共感的に理解しようとする努力が肝要です。

② 質の高い教育の向上

学生にもアクティブラーニングの経験が広がっています。そうした学習の在り方が一般的になりつつあります。ルーブリックの活用は、まだ学生はよく理解していませんでした。コンピテンシー評価とバリュー評価の機能をう

まく活用して具体的な目標の認識ができるようにすべきだと考えます。また、教員が相談しやすい存在として学生から頼られるようになることは重要です。

③ 看護教員の教育力・マネジメント能力の向上

教員の研修の充実によってより新しい知見の増大を目指していることが理解できました。今後もこの方向でご努力ください。群馬県下における看護学校の教育をリードする存在です。教員の実践的指導能力の一層の充実に努めていただきたいと思います。

④ 学生が主体的に考え、判断し、行動できる基礎能力の育成

看護専門職において「社会人基礎力」は重要です。学生たちにはこの点がまだ十分理解できていません。実習やボランティア活動の経験を生かして、社会的能力・態度の向上にご尽力ください。

⑤ 将来を見据えた学校のあり方と組織の活性化・効率化

情報リテラシーについては、その問題の深さや重さについて若い世代の人たちが十分に理解できていない面があります。今後も重要な観点としてあり方をご検討ください。

3. まとめ（感想）

本校以外でもいくつかの学校で児童生徒、学生の指導や支援に携わっている立場で感想を述べさせていただくと、本校の抱える課題は他の場所でも同様な課題であると考えます。その解決・改善を目指すためにも、時代の状況、社会風潮に即して「主体性＝自主性」「連帯性＝協働性」「創造性＝積極性」を視点とした多様な取組と、その結果についてはマイナス面の評価ではなく、プラス面での評価に注目することが重要であると思います。今後も管理者以下学校関係者全ての方々のご尽力を期待します。